海外だより

台湾の大学

松村源太郎*

The Universities in Taiwan

Gentaro MATSUMURA

昨年7月に台南の成功大学へ来た．この大学の前身は昭和6年に日本が作つた台南高等工業で，戦後大学に昇格した．その後，文，理，商の各学部ができたが，やはり工学部が中心である．戦後応用化学科から鑛山石油学科と冶金材料科学科が生まれ，大学院はまとめて鑛冶及材料科学研究所と呼ばれている．台湾大学（旧台北帝大）の工学部は昭和16年にでき，戦時中だつたので不完全だつた．今は立派に発展しているが，金属や材料の学科はない．いつぽうアメリカは義和団事件の賠償金を基金として1912年に北京に清華大学を作つた．基金の3/4は大陸で，残りはアメリカで投資されていたが，中共になつてからアメリカからの援助は中止された．やがてその金で新竹に原子力研究所を作つたが，1960年に同じ敷地にもうひとつの清華大学を作つた．この大学は理工学部だけの大学院が中心の大学で，学生は全員が80ヘクタールのキャンパスの寮に住み，教授の多くはアメリカの博士で，アメリカ式教育を行つている．

もうひとつ台北に省立の工業専科学校がある．この前身も日本が作つた唯一の工業学校で，ここにも材料科学科があり，台湾で材料の学科のあるのはこの3校だけである．筆者は今年の2月からこの3校で粉末冶金を教えた．ことばは英語を借りるが，台湾の学生は日本の学生よりはるかに英語は上手である．

現在台湾には約10校の国立と約10校の私立大学がある．国立校の総定員は約1万人，私立校は約1万5千人で，受験生は10万人いる．国立校はすべてどの私立校よりもよいと考えられており，受験生は国が行う入試でまず国立校を受ける．そこで失敗した人だけが私立校に応募するが，すでに受けた国の入試の成績で判定される．したがつて試験は1回だけで，入試地獄は日本以上である．至るところに大小の補習班（予備校）がある．工専は全国に約50校あり，その中で台北と高雄のが省立で，他はすべて私立である．

植民地時代には土着の人が差別されたことはいうまでもない．しかし西欧諸国が採つたような，字も教えない愚民政策ではなく，日本語を強制し，改姓をせまつた皇民化政策，すなわち寄らしむべし政策だつた．したがつて中学校ぐらいまでは差別なく行かせたが，台北帝大や台南高工は日本人子弟のための学校だつた．ただ全く入れないのではなく，土着の人は台南高工では創立当時は約5％，終戦時でも20％にすぎなかつた．したがつて入試の競争は日本人より激しく，現在の成功大学の教授の多くは当時の高工出身の秀才達である．戦後大学になつてから行きなおして学士を取つたり，留学して修士を得た教授などもいるが，博士を持つ人の比率は低い．成功大学では全教授の25％，台湾大学でも50％，清華大学は70％といわれている．しかし大学は講座制ではなく，正と副の2種類の教授はすべて独立対等で，講義やゼミナーには皆熱心である．材料科学科の大学院は修士までで，その後機械や電機へ移つて材料関係で博士を取る学生もいるが，依然としてアメリカ留学が多い．1960年代のアメリカの好況期には卒業生の2/3がアメリカへ渡り，大部分が帰つて来ていない．

清華大学も国立であるが，国の予算の他にアメリカからの金があり，大へん裕福である．材料科学科の主任の劉國雄教授は台北工専を出て岩手大学に留学し，京都大学へ移つて博士を取られた．非常な努力家で家族を台湾に残して10年，最後の4年間は一度も帰国されず，博士論文で日本金属学会の論文賞を受賞された．古代中国の夏の大禹が治水のため家を出て8年，その間に3回自宅の近くまで来たが立寄らなかつた故事が思い出される．工専を出たとき東北大学へ行きたかつたのに相手にしてもらえなかつたと嘆かれる．教授はまだ40代であるが最年長で，他の10人前後の教授はすべて30代であり，最年少の陳力俊教授は33才で，他を差しおいて6月に正教授に昇格された．カリフォルニア大学の電子顕微鏡で有名なトーマス教授の弟子で，毎夜遅くまで学生を励まして頑張つておられる．これを見ても新設の大学に定年組が天下つてくることもなければ，年功序列でもないことがうかがわれる．

*国立成功大学客員教授　理博

日本に留学した金属関係者は劉教授のほかに成功大学材料科学主任の周釋善教授（東大修士），台北工専の呉裕慶教授（東大博士），原子力研究所の林於隆主任（東北大博士），国立金属工業研究所の許廷珪室長（東工大博士）らがおられる．いずれも博士を取るまでに10年前後かかり，いろいろ苦労があつたようである．戦後台湾へは多くの日本の企業が進出している．アメリカはいまだに清華大学に送金を続けているが，日本が作つた成功大学や台北工専にも，政府が無理ならこれらの進出企業が奨学金を出すとか，装置を寄贈するとか，留学生の宿舎を建てるようなことでも考えていただけると大へん有難い．筆者は先学期は成功大学のほか，隔週ごとに台北へ行き，翌日台北工専で4時間教えたあと新竹へ移り，清華大学で夜2時間，翌日3時間教えて台南へもどつた．また週に一度高雄の金属工業研究所へも嘱託として通つた．もう一年続ける予定でいる．御来台の折にはぜひ台南まで足をお伸ばしいただきたい．